

Roger Luckhurst. *Gothic: An Illustrated History* を読む

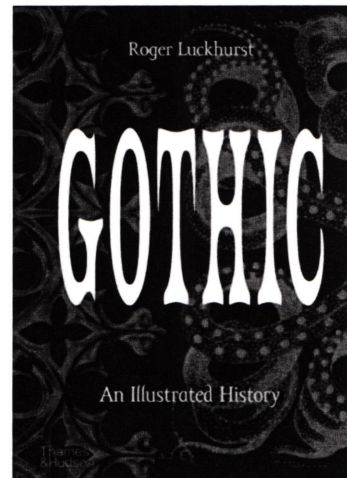
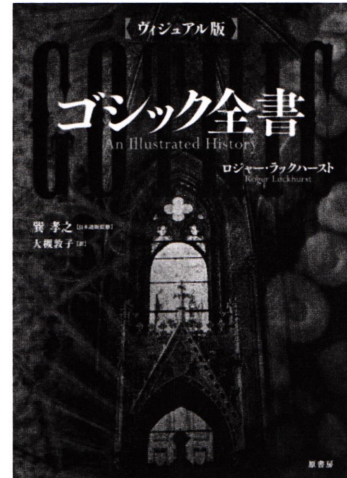
佐々木 隆

プロローグ

筆者は「H.P. Lovecraft “Herbert West Reanimator” を読む—SF とゴシック小説の狭間で：『フランケンシュタイン』を意識して—」（2024）（佐々木 e 1-73）でゴシック小説とゾンビについても触れたが、ロジャー・ラックハースト（Roger Luckhurst, b.1967）はゾンビに関する研究でも知られている。

人造人間、ロボット、ゾンビの研究を進めれば、その原点には SF やファンタジーなどに辿りつくが、さらにその源泉を探ると「ゴシック」というキーワードに辿りつくことになる（佐々木 c 10-55; 佐々木 e 64）。

今回、駒澤大学図書館でふと『ゴシック全書』が目にとまった。さらに著者の名前がロジャー・ラックハーストとあり、さらに興味が湧いた。これまで「ハロウィーンとゾンビ」（2020）（佐々木 a 32-61）、「ゾンビの一考察—日本でのゾンビブーム」（2021）（佐々木 b 9-17）、「文学上のゾンビの原点は？」（2022）（佐々木 d 1-38）等を通してラックハーストの著述に触れ、触発されることが多かったことから、原書も入手し、キーワードとしてゴシックとゾンビに着目した。本稿では、これまで注目してきた「ゴシック、ファンタジー、SF、ゾンビ」をキーワードにしなが、特にゴシックと「ゾンビ」の関係について注目したい。



1 Roger Luckhurst

ロジャー・ラックハーストについては *Gothic: An Illustrated History* (Thames & Hudson, 2021) の翻訳本ロジャー・ラックハースト／巽孝之日本語版監修／大槻敦子訳『[ヴィジュアル版] ゴシック全書』（原書房、2022年9月）のカバーには次のような簡単な紹介がある。

ロンドン大学バークベック・カレッジ現代文学教授。著書に『テレパシーの発明 [The Invention of Telepathy, 1870-1901]』（2002年）、『ミイラの呪い—ダークファンタジーの本当の歴史 [The Mummy's Curse: The History of a Dark Fantasy]』（2012年）、『ゾンビ最強完全ガイド』（福田篤人訳、2017年）があるほか、ブラム・ストーカー、ロバート・ルイス・スティーヴンソン、H・P・ラヴクラフトなどの古典ゴシック小説を多数編集。